

二日市イシバチ遺跡 6

2015

石川県野々市市教育委員会

例 言

- 1 本書は、二日市イシバチ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の所在地は、石川県野々市市二日市町地内である。
- 3 発掘調査原因は二日市町2号線歩道整備工事にともなうものである。
- 4 発掘調査期間・面積・担当者等は以下のとおりである。

・現地調査期間	平成 20 年 6 月 25 日～7 月 9 日 平成 25 年 7 月 30 日～8 月 23 日
・現地調査面積	252㎡
・現地調査担当者	永野勝章(野々市市教育委員会文化振興課職員) 多間 聖(野々市市教育委員会文化振興課職員)
・報告書執筆・編集	田村昌宏(野々市市教育委員会文化振興課職員)
・出土品写真撮影	菊地由里子(野々市市教育委員会臨時職員)
・報告書編集補助	菊地由里子

- 5 本における遺構名称の略号は右記のとおりである。 壑穴建物：SI SK：土坑 溝：SD 小穴：P
- 6 調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括して保管・管理している。



第1図 野々市市位置図

第1章 経緯と経過

本書の二日市イシバチ遺跡発掘調査は、二日市町地内における歩道整備工事を調査原因とする。この歩道工事は、JR西日本北陸線に隣接して行われた北陸新幹線整備工事に付随したものである。平成20年5月20日野々市町産業建設部長から当該地における埋蔵文化財調査の依頼があった。当該地は埋蔵文化財包蔵地であったため、発掘調査が必要となった。工事担当課である野々市町建設課と野々市町教育委員会は協議を重ね、発掘現地調査を平成20年度と25年度に実施し、出土品整理及び報告書刊行を平成26年度に行うこととした。現地調査については、平成20年度は6月25日に開始して7月9日に完了し、平成25年度は7月30日に開始し8月23日に終了した。平成26年より出土品整理を開始し、報告書の執筆・編集を経て、平成27年3月28日に報告書を刊行した。



第2図 遺跡・調査区位置図

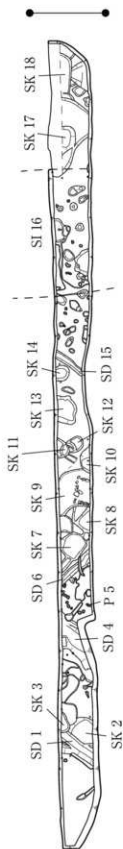
第2章 遺構と遺物

第1節 遺構

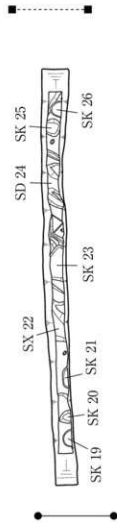
- ・SD 1 (第3・4図)
N6° E の方位をした溝である。幅約 110cm、長さ約 260cm、深さ約 55cmを測る。
- ・SK 2 (第3・4図)
SD1、SK3と切り合っており、形状は不明である。東西長約 150cm、南北長約 180cm、深さ約 33cmを測る。
- ・SK 3 (第3・4図)
北半分は調査区外に延びており、全容は不明である。東西長約 140cm、南北長 60cm以上、深さ約 14cmを測る。
- ・SD 4 (第3・4図)
N6° E の方位をした溝である。幅約 180cm、長さ約 200cm、深さ約 78cmを測る。
- ・P 5 (第3・4図)
東西長約 48cm、南北長約 18cm、深さ約 14cmの三角形に近い穴である。
- ・SD 6 (第3・5図)
W17° N の方位をした溝である。幅約 50cm、長さ約 250cm、深さ約 22cmを測る。
- ・SK 7 (第3・5図)
隅丸長方形の土坑で、長辺約 170cm、短辺約 155cm、深さ約 70cmを測る。
- ・SK 8 (第3・6図)
隅丸長方形で南半分は調査区外に延び、全容は不明。規模は 140 × 120cm以上、深さ約 70cmを測る。
- ・SK 9 (第3・5図)
掘方の際に石が組まれた土坑で、形状は不明である。東西長約 240cm、南北長約 200cm、深さ約 40cmを測る。
- ・SK 10 (第3・6図)
略円形をするが、南半分は調査区外のため全容は不明。東西長約 190cm、南北長 60cm以上、深さ約 35cmを測る。
- ・SK 11 (第3・6図)
北半分は調査区外となるため、形状は不明である。東西長約 130cm、南北長 80cm以上、最深部約 28cmである。
- ・SK 12 (第3・6図)
北端はSK11に切られている。形状は楕円形で、長辺約 120cm以上、短辺約 90cm、最深部約 30cmである。
- ・SK 13 (第3・6図)
歪な隅丸方形で、北半分は調査区外となる。東西長約 180cm、南北長 125cm以上、深さ約 20cmである。
- ・SK 14 (第3・6図)
楕円形をしており、北半分は調査区外となる。東西長約 100cm、南北長 90cm以上、深さ約 40cmである。
- ・SD 15 (第3・9図)
N3° E の方位をした溝である。幅約 50cm、長さ約 210cm、深さ約 23cmを測る。
- ・SI 16 (第3・7図)
(財) 石川県埋蔵文化財センターが北隣で調査した際発見した堅穴建物の一部にあたる。規模は東西約 8.0m、深さ約 10cmで、西端には周溝がある。貼床はない。県の所見では、Pアークを堅穴の柱穴としているが、今一度検討を要する。
- ・SK 17 (第3・8図)
南北の調査区外に延びるため、形状は不明である。東西長約 520cm、南北長 180cm以上、最深部約 38cmである。
- ・SK 18 (第3・8図)
隅丸方形であるが北半分は調査区外のため全容は不明。東西長約 290cm、南北長 80cm以上、深さ約 40cmを測る。
- ・SK 19 (第3・9図)
略円形で南半分は調査区外となる。東西長約 110cm、南北長 60cm以上、深さ 90cm以上である。井戸と思われる。
- ・SK 20 (第3・9図)
略楕円形で南半分は調査区外となる。東西長約 90cm、南北長 75cm以上、深さ約 15cmである。
- ・SK 21 (第3・9図)
略楕円形で南半分は調査区外となる。東西長約 140cm、南北長 35cm以上、深さ約 10cmである。
- ・SX 22 (第3・9図)
東西長約 230cm、南北長 90cm以上、深さ約 25cmを測る。溝になるかもしれない。
- ・SK 23 (第3・10図)
調査区が狭小のため形状は不明。東西長約 230cm、南北長 75cm以上、深さ約 25cmを測る。
- ・SD 24 (第3・10図)
N3° E の方位をした溝である。幅約 110cm、長さ約 100cm、深さ約 25cmを測る。
- ・SK 25 (第3・10図)
略隅丸方形で北端は調査区外となる。東西長約 110cm、南北長 90cm以上、深さ約 30cmである。
- ・SK 26 (第3・10図)
略楕円形の形状で、東西長約 100cm、南北長 75cm以上、深さ 70cm以上を測る。井戸かもしれない。



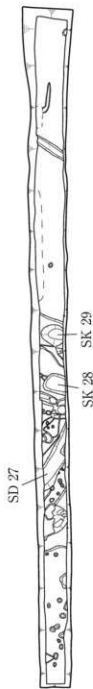
A区 (平成20年度調査)



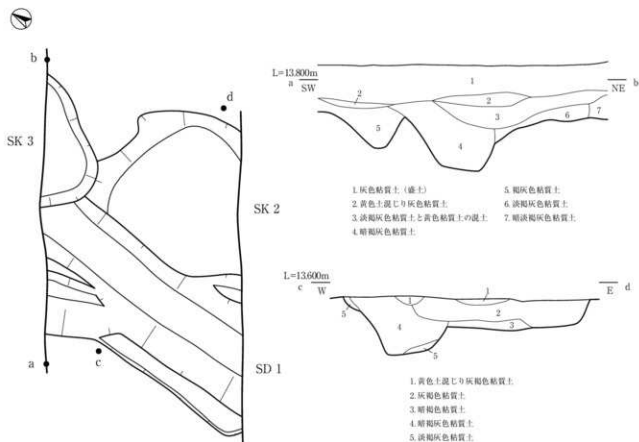
B区 (平成25年度調査)



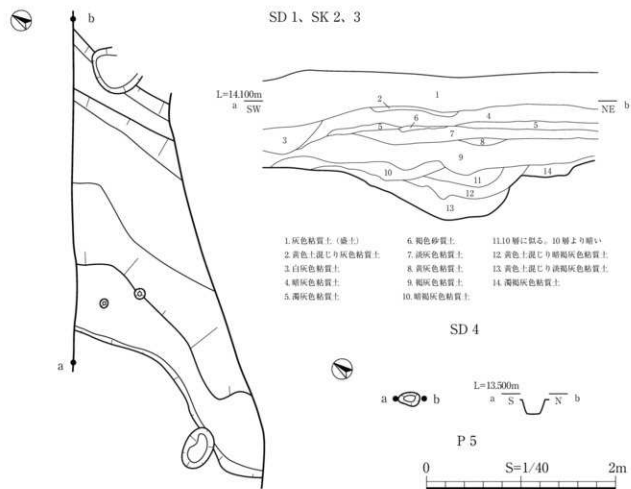
C区 (平成25年度調査)



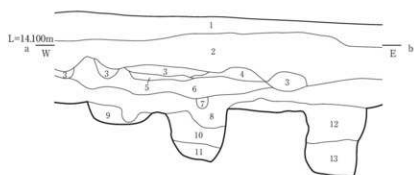
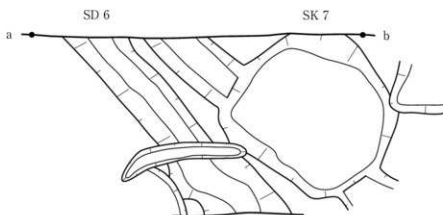
第3図 遺構全体図 (S=1/250)



SD 1、SK 2、3

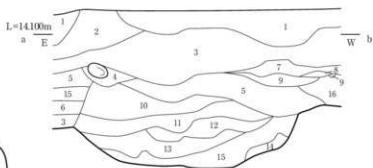
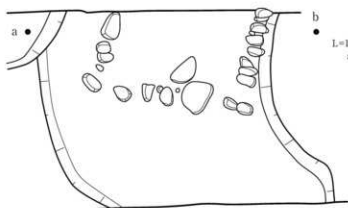


第4図 SD 1、4、SK 2、3、P 5、遺構図・土層断面図 (S=1/40)



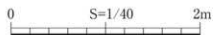
1. 盛土
2. 明灰色粘質土
3. 黄色土混じり灰色粘質土
4. 薄層灰色粘質土
5. 黒色土混じり薄層灰色粘質土
6. 細灰色粘質土
7. 黄色土少混じり明層灰色粘質土
8. 明層灰色粘質土
9. 黄色土混じり明層灰色粘質土
10. 細灰色粘質土
11. 礫混じり明層灰色粘質土
12. 黄色土混じり細灰色粘質土
13. 細灰色土少混じり黄色砂質土

SD 6, SK 7

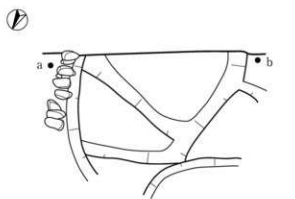


- | | | |
|------------|--------------------|-------------------|
| 1. 盛土 1 | 7. 褐色土、黒色土混じり黄色粘質土 | 12. 灰色土混じり黄色砂質土 |
| 2. 盛土 2 | 8. 明層褐色粘質土 | 13. 黄色土混じり灰色粘質土 |
| 3. 薄灰色粘質土 | 9. 黄色土混じり細層粘質土 | 14. 黄色土混じり明層灰色粘質土 |
| 4. 灰色粘土 | 10. 礫混じり細層砂質土 | 15. 礫(大)混じり灰色粘質土 |
| 5. 明層灰色粘質土 | 11. 明層灰色粘質土 | 16. 明灰色粘質土 |
| 6. 灰色粘質土 | | |

SK 9



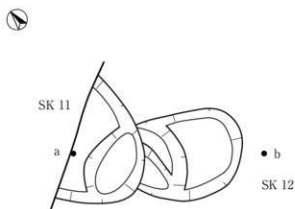
第5図 SD 6, SK 7, 9 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



L=13500m
a E W b



SK 8

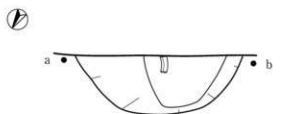


L=13700m
a NW SE b



1. 褐色粘質土
2. 淡褐色粘質土
3. 礫混じり褐色粘質土
4. 薄褐色粘質土
5. 礫混じり淡褐色粘質土
6. 灰褐色粘質土

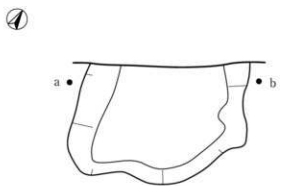
SK 11、12



L=13500m
a E W b



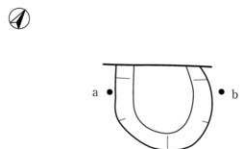
SK 10



L=13500m
a W E b



SK 13

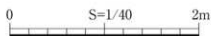


L=13600m
a SW NE b

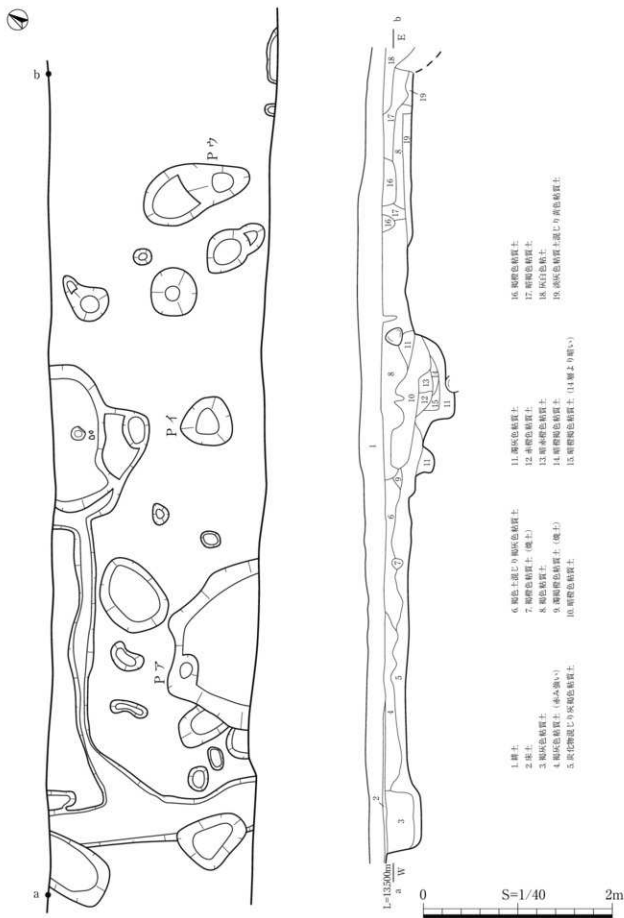


1. 褐色粘質土
2. 黄色土混じり淡褐色粘質土
3. 淡褐色粘質土

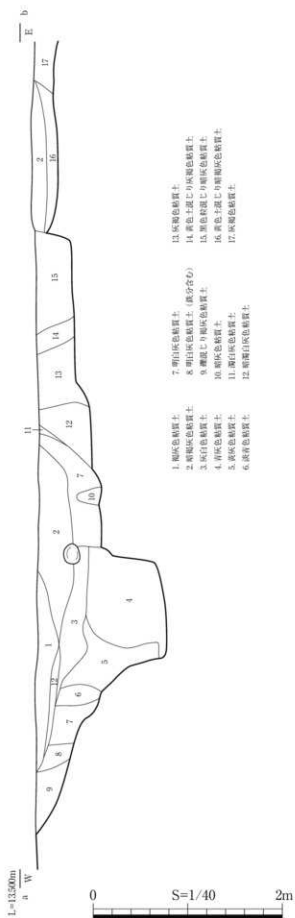
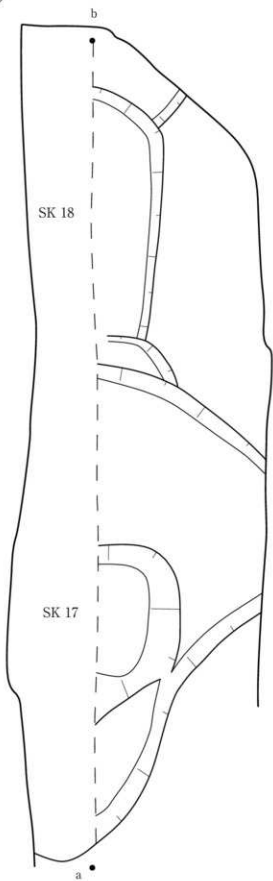
SK 14



第6図 SK 8、10～14 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

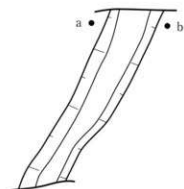


第7図 SI 16 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



- 1. 褐色粘質土
- 2. 暗褐色粘質土
- 3. 灰白色粘質土
- 4. 褐色粘質土
- 5. 褐色粘質土
- 6. 褐色粘質土
- 7. 明白灰色粘質土
- 8. 明白灰色粘質土 (底分含む)
- 9. 薄層より暗褐色粘質土
- 10. 暗褐色粘質土
- 11. 明白灰色粘質土
- 12. 暗明白灰色粘質土
- 13. 褐色粘質土
- 14. 黄色土層より暗褐色粘質土
- 15. 黄色粘層より暗褐色粘質土
- 16. 黄色土層より暗褐色粘質土
- 17. 暗褐色粘質土

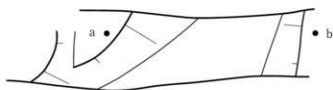
第8図 SK 17、18 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



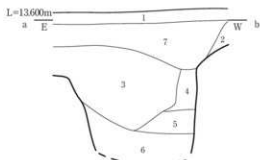
SD 15



SK 21

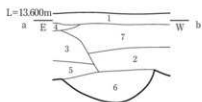


SX 22



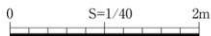
1. 耕土
2. 黄色土 (25Y7/6) 縦じりに凹凸・黄褐色 (10YR4/3) 粘質土
3. 横縦じり黄褐色 (25Y5/4) 粘質土
4. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土
5. 黒褐色土 (10YR2/3) 縦じり黄色粘質土 (25Y8/6)
6. 黒褐色 (10YR2/3) 粘質土
7. に凹凸・黄褐色 (10YR4/3) 粘質土

SK 19

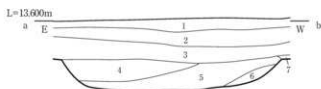


1. 耕土
2. 横縦じり黄褐色 (25Y5/4) 粘質土
3. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土
4. 黄褐色 (25Y5/3) 粘質土 (鉄分混じる)
5. 横縦じり黒灰色 (10YR4/1) 粘質土
6. 横縦じり黒褐色 (10YR2/3) 粘質土
7. に凹凸・黄褐色 (10YR4/3) 粘質土

SK 20

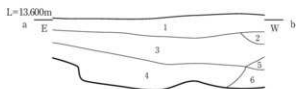
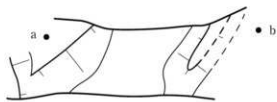


第9図 SD 15、SK 19～21、SX 22 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



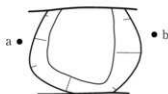
1. 耕土
2. 床土
3. 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
4. 礫混じり灰黄褐色 (10YR5-2) 粘質土
5. 褐灰色 (10YR5-1) 粘質土
6. 黄色土 (2.5Y8/6) 混じり褐灰色 (10YR5-1) 粘質土
7. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 (鉄分混じる)

SX 23

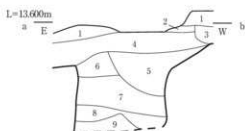


1. 耕土
2. 床土
3. 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
4. 礫混じり灰黄褐色 (10YR5-2) 粘質土
5. 褐灰色 (10YR5-1) 粘質土
6. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土

SD 24

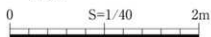


SK 25

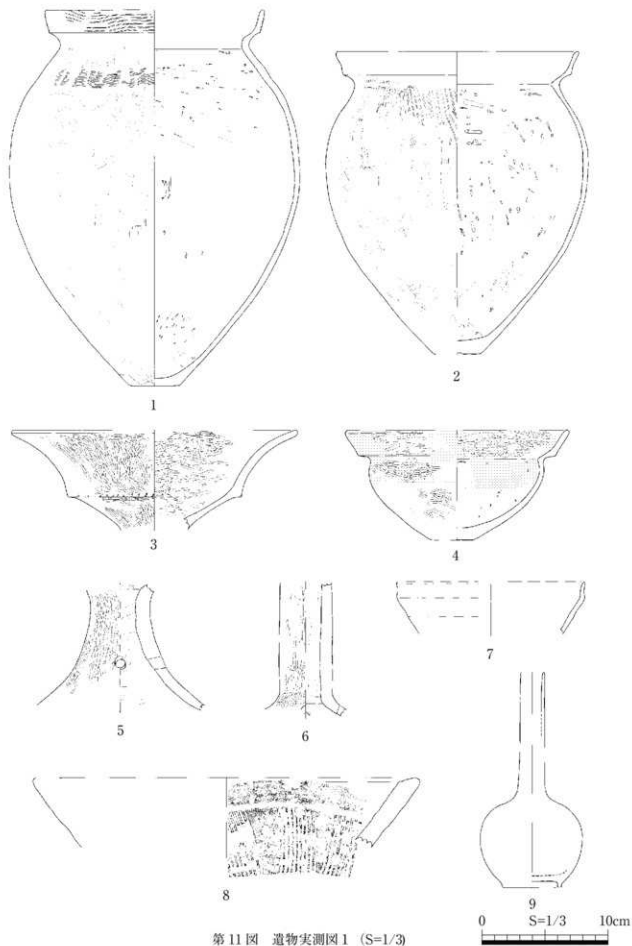


1. 耕土
2. 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
3. 褐灰色 (10YR5-1) 粘質土
4. 黄色土 (2.5Y7/8) 混じり灰黄褐色 (10YR4/3) 粘質土
5. 礫混じり黄褐色 (2.5Y5-4) 粘質土
6. 灰黄褐色 (10YR5-2) 粘質土
7. 黒褐色 (10YR3-2) 粘質土
8. 黄色土 (2.5Y8/6) 混じり黄褐色粘質土 (10YR3-2)
9. 黒褐色 (10YR2-2) 粘質土

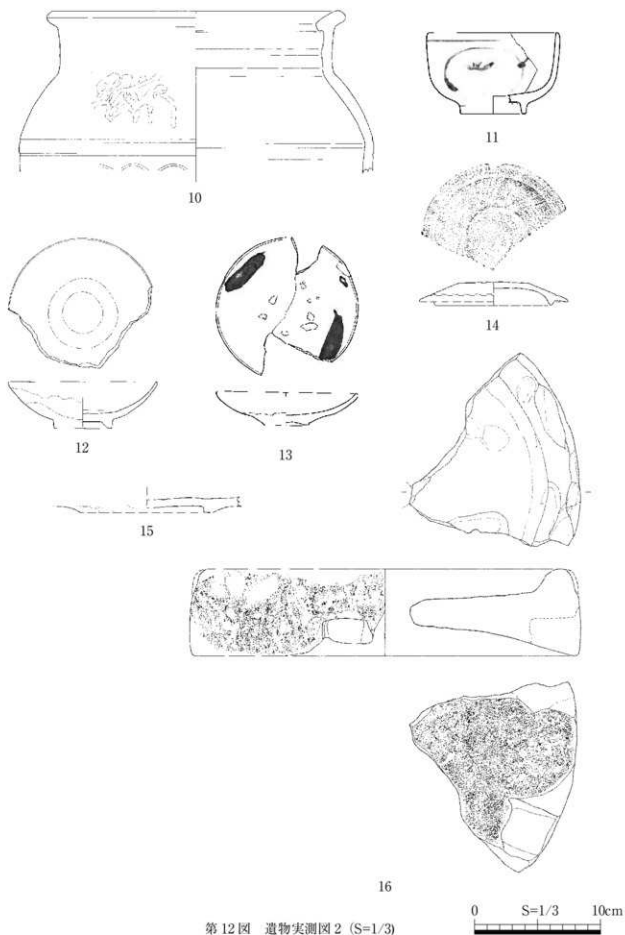
SK 26



第10図 SX 23、SD 24、SK 25、26 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



第11図 遺物実測図1 (S=1/3)



第12図 遺物実測図2 (S=1/3)

- ・SD 27 (第3図)
W3° S の方位をした溝である。幅約 115cm、長さ約 340cm、深さ約 35cm を測る。
- ・SK 28 (第3図)
略隅丸方形で南端は調査区外となる。東西長約 130cm、南北長 150cm 以上、深さ約 30cm である。
- ・SK 29 (第3図)
略楕円形で南端は調査区外となる。東西長約 145cm、南北長 145cm 以上、深さ約 40cm である。

第2節 遺物

1～6 は弥生時代後期後半の土器である。いずれも SI16 からの出土である。7 は瀬戸焼天目茶碗、8 は加賀焼すり鉢、16 は石臼の上臼で、14～15 世紀の所産である。9～15 は近世後半の国産陶磁器である。

第3章 総括

本調査では、弥生時代後期、中世、近世の遺構・遺物を確認した。弥生時代では竪穴建物 1 棟を検出している。本調査区より南西約 500 m には、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の竪穴建物約 30 棟存在する集落の中心がある。本調査区で確認した竪穴建物一帯は当該時期の集落の縁辺部にあたると思われる。中世は 14～15 世紀を主体とする集落跡が存在する。本遺跡では当該時期の掘立柱建物、竪穴状遺構、井戸跡で構成される宅地が各地に点在しており、SK19、26 は当該時期の井戸跡と考えられ、本調査区にも宅地の一端が存在するようである。近世は、本調査区で最も多くの遺構・遺物を確認した。遺構では、土坑、溝などを検出し、遺物では肥前陶磁器が数多く出土した。これらの遺構群は、本調査区南方に位置する現在の二日市集落の前身にあたる考えられる。

<参考文献>

- 垣内光次郎. 1999「石の文化誌」[中世北陸の石文化Ⅰ] 北陸中世考古学研究会
- 2003「野々市町史 資料編1 考古 古代・中世」野々市町史編纂専門委員会
- 2012「野々市市二日市インバシ遺跡(北陸新幹線建設事業)」石川県教育委員会(財)石川県埋蔵文化財センター

第1表 土器・陶磁器観察表

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整		残存率	備考	実測番号
						(外)	(内)			
1	SI16	弥生土器	175	297	42	ヨコナデ、ハケ、ナデ	明赤黒、にぶい黄橙、灰黄黒	口縁部 1/7、底部 3/5	外面に窪付着	H 15
		弥生土器				ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙、灰黄黒	体部 1/7、底部 3/4	板目線7条、波状文	
2	SI16	弥生土器	193	240	36	ヨコナデ、ハケ	橙、にぶい橙	口縁部 2/3、体部 2/3	外面に窪付着	H 16
		弥生土器				ヨコナデ、ケズリ	にぶい赤黒	底部 全周	炭化物	
3	SI16	弥生土器	228			ミガキ	にぶい橙、黒灰	1/5		H 6
		器台				ミガキ	にぶい橙			
4	SI16	弥生土器	178	87.5	34	ミガキ	浅黄橙	口縁部 3/4		H 4
		鉢				ミガキ、ケズリ、ナデ	浅黄橙	頸部以下 全周		
5	SI16	弥生土器				柱状部 伴	ミガキ			H 7
		器台				47	ミガキ	橙、にぶい黄橙	1/3	
6	SI16	弥生土器				柱状部 伴	ミガキ			H 8
		高杯				42	ハケ、ナデ	にぶい黄橙	柱状部 1/5	
7	包含層	瀬戸焼	150				黒陶、黒	1/9	内外面鉄軸	H 1
		天目茶碗					暗黒			
8	包含層	加賀焼	307				橙	1/4		H 10
		すり鉢					橙			
9	SK2	白磁	19	171	46		灰白	完形		H 2
		花生					灰白			
10	SK10	越前焼	237				暗黒、黒陶	1/3	鉄軸	H 3
		壺					暗黒			
11	包含層	肥前陶器	106	64.5	53		灰	口縁部 1/4、体部 1/3		H 11
		碗					灰	高台部 1/3		
12	SD15	肥前陶器	118	37	46		灰白	口縁部 1/2 弱	蛇ノ目軸はぎ	H 12
		碗					灰白	高台部 全周	銅緑軸	
13	SK3	唐津焼	112	27	36		灰オリーブ	口縁部 3/4	胎土目	H 13
		皿					灰オリーブ	高台部 全周	鉄軸	
14	包含層	土師器	118	19			ヨコナデ			H 9
		蓋					ヨコナデ		回転ハケ閉り	
15	SK3	信楽焼			105		浅黄、にぶい橙	高台部 1/3		H 14
		皿					浅黄			

第2表 石製品観察表

番号	遺構	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考	実測番号
			(mm)	(mm)	(mm)	(g)			
16	PS	石臼 (上臼)	310		69	980	凝灰岩		H 5



平成20年度調査 (A区) SD1-SK18完掘状況 東から



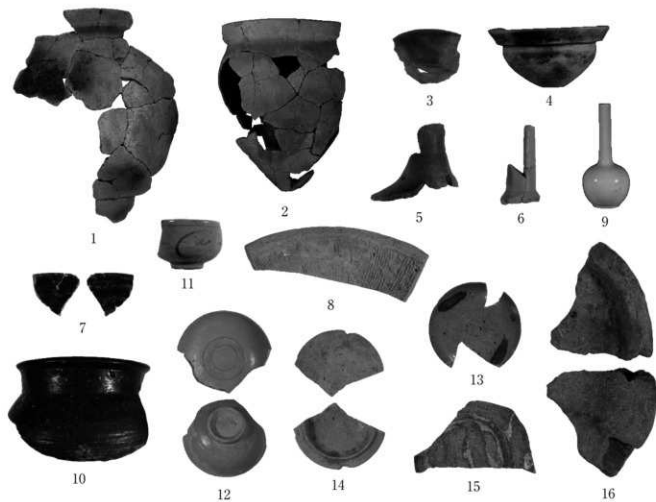
平成20年度調査 (A区) SI16完掘状況 西から



平成25年度調査 (B区) SK19-SK26完掘状況 東から



平成25年度調査 (C区) SD27-SK29完掘状況 東から



報 告 書 抄 録

ふりがな	ふつかいちいしばいせき6								
書名	二日市イシバチ遺跡6								
副書名	二日市町2号線歩道整備工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻次									
シリーズ名									
シリーズ番号									
編著者名	田村 昌宏								
編集機関	野々市市教育委員会								
所在地	〒921-8510 石川県野々市市三納一丁目1番地 Tel: 076-227-6122								
発行機関	野々市市教育委員会								
発行年月日	西暦 2015年3月28日								
フジボタ 所収遺跡名	フジボタ 所在地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
フジボタ 二日市 イシバチ イセキ 遺跡	イシバチ 石川県 フジボタ 野々市市 フジボタ 二日市	17344	1201700	36° 32' 25"	136° 35' 45"	2008.6.25 ~ 2008.7.9	100	記録 保存 調査	
				36° 32' 27"	136° 35' 49"	2013.7.30 ~ 2013.8.23			152
				種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項
				集落	弥生、中世、近世	竪穴建物1 土坑19 溝5	土器、陶磁器、石臼		
要 約	<p>本調査区では、弥生時代、中世、近世の集落跡を確認した。弥生時代は後期後半の竪穴建物の一部を検出した。中世は土坑や溝を確認した。土坑の中には井戸の可能性が高いものが認められ、調査区内は宅地の一角にあたると考えられる。近世は土坑等を検出した。本調査区南隣に所在する二日市集落は江戸時代に成立しており、その集落の一端にあたると考えられる。また、本調査区に隣接して、石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センターが発掘調査しており、今回確認した遺構の延長部をみる事ができる。</p>								

2015年3月28日 発行

二日市町2号線歩道整備工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

二日市イシバチ遺跡6

著作権所有 石川県野々市市三納一丁目1番地

発 行 者 野々市市教育委員会

印 刷 者 石川県野々市市矢作三丁目18
高桑美術印刷株式会社